

サブ課題B：「点検支援技術を活用した長大PC橋(各務原大橋)の橋梁点検」現場見学会にて技術紹介を実施しました。(サブ課題C連携)



橋脚の強度を確かめる「打音検査」をレーザーを発して行う実験

各務原大橋での現場見学会の様子

2023/12/15 NHK岐阜県のニュースより

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/gifu/20231215/3080012618.html>

令和5年12月14日(木)

SIP第3期「スマートインフラマネジメントシステムの構築」において、先進的なインフラメンテナンスサイクルの構築(サブ課題B)を目的とする名古屋大学・建設技術研究所・レーザー技術総合研究所・量子科学技術研究開発機構からなる研究チームは、地方自治体等のヒューマンリソースの戦略的活用(サブ課題C)を目的とする岐阜大学、岐阜県各務原市らと共同で、各務原市の

長大PC橋(各務原大橋：サブ課題C・構造物点検と診断のためのシーズ試行場)の2巡目点検の効率化を目指した、最新の点検支援技術・AI技術等を活用した橋梁点検及び現場見学会において技術紹介を実施しました。現場見学会では、スマートインフラマネジメントシステムの実現に必要な「コンクリートの物理的・化学的な劣化の予測技術の開発」に用いる「レーザー打音検査装置」、「レーザー誘起ブレイクダウン分光(LIBS)装置」、「物理的・化学的な劣化を再現した供試体」の有効性・利用方法について、自治体・道路施工/管理者・ME取得者・建設コンサルタント会社等の参加者(219名)と、実際の計測及び結果を交えた意見交換を行ないました。特に遠隔・非接触性に対する関心が高く、実施したアンケートでも実務への導入に前向きな意見が多数を占めると共に、試験現場の提供や小型化への要望等の具体的な提案も頂きました。なお、本見学会の様子は、NHK岐阜県のニュース及び岐阜新聞、橋梁新聞で紹介されました。



レーザー打音検査装置



LIBS装置